の最高位にある飲料水が

ければ、生活條件として 上水道の擴張工事をしな 破してゐる關係上急速に 民二萬五千人に給與す 現在学町の水道施設が

だけのものし

かないので

あるが、二萬七千人を突

町民全體に給與されな

いる悲惨な狀態に

おか

ごろ/



で總會を開催組合長の改選 午後一時から平税務署樓上

を行ったが石城部川前村永

亀太郎氏當選した

石城

都酒造組

合では十一

0

ba

Ŋ

酒造組合長當選

æ

4

きである。 の政策を樹立し遂行すべ

笑するものである。 ら必需物を奪っても緊縮 國民の口を詰めい國民 那邊にある かを嘲

起債認可の雲行きが怪し

なった。

波紋を画いてゐる。

が、全國的に

げた緊縮

どから 源はごろくしてゆる。 中から断乎たる處置るへ ブルデョアの脱税からも 濟せんとするならば、財展しの調査によれば預入は 難の途上にある現局を敷における郵便貯金預入及拂 民政黨が國家の經濟的受から六月末日まで六ヶ月間民政黨が國家の經濟的受から六月末日まで六ヶ月間等するものである。 無用の役人を整理するこ も、上層階級の連 百十萬八百六圓八十四錢五り更に拂戻し方面では總額 百六十五圓四十四錢でその 總額實に百三十八萬四千九 口敷五萬六百七となつて居

パン嬢自身判りません

る

の改稱され

た理由はナン

極政策を執るんだといふ くても充分である 合しやうとする民政黨が 無産政富意識になりさへ 大衆に色目をつかつて迎 **〜してゐる。** から民政黨は消しるこれは石城地方金融等 積極的な政策で 示して頗る好成績を擧げて 緊縮なん いえ透して 7) せな|干三百九十六口で るが一方各自の貯蓄 上を現してゐるものである の不安もその原因をなしか 月平均約五萬圓宛の増加を 圓五十九錢四厘口數三萬八 額は二十八萬四千百五十八 あるが毎

擧し典論と結成力を武器 地元町氏は結束して民政 民の必要欠くべからざる 大衆は政氣を超越して一 た各種の事業は、國家國 閣に迫るべきである 綴字堀坂地内道路を客三名 後二時年頃同部內鄉村大字 ←登(二一)は去月十二日午 町字南町 子供をヒ 自動車營業停止 自動車運轉手

として政府當局に肉迫す|(九ツ)を轢き全治四週間を|内の

氷水屋營業者は俄か

1.

を乗せ疾走中同村の鈴木甫

受難過程であらねばなら

明の埋である

黨內

は善くなる為め

問題である。

ことでなければならぬ。 民の經濟生活が善くな 政策と

いふべくんば、

呪ふべき政策しある。 欠くとするならば、

るる。

石城郡下の緊縮に祟られ

田フサ(一〇)は十二日午後二時

頃鮫

\ あがる」 ご語つ

泳中あまり

の暑さの

0

やうな氣分が

生の主体となつてゐる飲 この使命を負ふて保健衛

上の由々敷重大事である

ける結果として當然起う

飲料水の給與が不足を告

れてゐる。

てくる問題は、

保健衛生

料水が、政府の政策によ つて國民に充分な支給を

進出する

政友會が

預入百三十八萬四千餘圓 0 局极高

拂戾百十万八千餘圓 比較的安定の石城財界

筈である。

執る決心があれば財源が屋口敷一萬二千二百十一口 預入ご 排展しとの差 要する傷を負はせたがこの として三十日間の營業停止 程平署で自動車取締令規則 を命じた は「此の天候は後二三日は繼續する てゐた尙植田町字佐ヌカ米作三女平 暑さである右に就て小名濱測候所で 十一度二分で本年にはいつてからの Ø) 殺人的今日此の頃の暑さ で氣温はまだ! 十三の平町地方に於ける最高温 午後二時四十分(本社編輯局內)九

最高温度は

三日は

度

平署に願出 冰屋 川河 めに水中で頓死した 口に於て水

さん も五百餘軒 た (P)

近頃の暑さの爲めに平署管面には不正氷屋なども現れ

神的にはげしい勞働で ほめて置いて一日平均 時間の勤務女としては 務員平 精八と業も さにもかかはらずし

事務員と改稱されたがそ現代のナンバン嬢は電話 これは敢て悪口ではない 名を『ナンバン嬢』しかし ンパン』稱して交換嬢別 『モシ (から晩迄の 氣の弱しものには動いらぬ 別名ナン 當の教育を受けたもの に目覺めて來た證據だ ゐるがそれは婦人の職 には現在三十人中には ところでその事 バン孃の仕事

も立てやうといつてゐる がごうして一一女性とし のゆるす範圍内で氷柱で 立つて駄目。将來は經費 えるそ大禁動のほこりが があるけれざも程度を越 交換室には二箇の煽風器 骨折は大したものであ

てゐる。取分けてこの暑 晝食と用便の休憩時間少して夕方の四時五時まで つきモシーをくり返し しで他は交換臺にしがみ によつて朝八時に出勤 72 氣の弱

であつても誰かテレホン 此の暑さ例へそれが仕事 ガールに同情を寄せざる 差しが却つていそがしい すものとは眞實のことだ きは思はず眠氣を催しま 方がいるのョ店の暇など のみだ全身汗だくでひつ きりなしにコードの抜き かに强さうなお嬢さん達 まらないとあつてなかな つきものゝコ言が絶えず いものは到底つと

がらり態度をかへた 一部議員の爲めに 廣野後任村長問題

ら夏季に際して避暑客が入屋營業者を招き松本署長が四倉署長の注意。四倉署 それん~の注意をなしたらざる樣其の外二三に就てらびる樣其の外二三に就ているがある。 他を防止する事と二つた 店を一齊に檢査して不正 一揺すると同時に傳染其 0 の議員はにはかに從來の主 るに拘らず最近に到り數名ではなかと傳へられてゐる 平等の諸氏あり多士齊々な|は數名の議員を買收したの 役鈴木忠良、前助役小磯運在し居るものゝ如く一説に 頭鯨岡榮職、鈴木幸職、助面には何等かの醜關係が伏しては佐藤前村長、消防組紛擾を釀してゐるが其の裏 再三村會を召集し後任者をは非常に激昂し自治体を破欠員となつてゐるので其後 んとしてゐるので一般村民中佐藤前村長が滿期退職後め助役 一名の增員をも行は双葉郡廣野村長は去る五月事等は到底不可能である為 物色中であるが最適任者と壊するも甚だしいと目下大 ますくつンキウ

張を飜し平素村民から

イハキ食堂

窓合で就任しても事務を取る上同人は既に七十歳に近い老の人と策動し居る由であるが

れてゐる高利貸の某を推さ

ダカツの如くに嫌は

の他岩城三ぱんの重臣等が

時の泉はんにてはご旅館の

入院自

此の時奥羽聯盟

.00

W.

A.

4

號七

差し廻しの駕籠に召し奉り

てご出立相成られたで警護を藤嘉七平安朝時代に開基

治二年廢寺淨土宗時の住職

の役には宮のご近侍鈴木安

時)に及び宮には泉はんおひ其の夜は同村慈眼院(明

同日八ツ時(今の午後二|の泉村大字玉露)に着き給

の午後五時)甘露寺村(今

本院醫事法制囑託 法學士

本院主事

賀岡

忠

自製品

B A ・ ・ ・ ・ ・ 、

00

靴の

御

用は形ト仕事ト

安價デ確實な

治蕃睦

△弊店獨特…白革底

かるく凉しく……丈夫な白靴

したる

ه

初夏!!!

醫學博士

波

ハ三十四五名二不過ト記屋し給うた。七ツ年時(今

ぎ(今の三時年頃)再びご發

X

醫學博士 醫學士

|藝守以下彰義隊の一部隊基||つに)お宿とり給うた此の

せる寺今此の跡に観音堂建

十四百萬

億仕リ

故北白川宮能久親王 蹟

(四)

故陸軍大將大勳位北白川宮能久親王殿下の第 第三王子小松侯を迎へて

得たるに對し深厚の意を表するものである りたく、 の由に付、本社は弦に本郡の光榮を紀念し奉 言したる諸根様一氏に乞ひて、本文の寄稿を 昨年平町長及び泉村長等に其の顯彰方法を献 し時の御史蹟を探るべく、來る十八日御來町 か給ひし父君殿下が、本郡に御三泊遊ばされ たなる明治戊辰に圖らず、東奥に奥に御かん 三王子にまします小松侯爵には、記憶未だ新 豫ねて殿下の御遺せき研究家にして

|御方ハ御荷物等一切無之漸| 意に着手せる中を街道(今 |右ノ者同行其他記憶不仕候|のはん兵等は既に九面(是 |んへ運搬ノ品有之候哉ハ誰|は殿上いのご息所なりと稱 者ハ無之乍去當時與羽諸は クー二ノ風呂敷包ニ不過御|の國道ご警護)嚴重にご通 水上ゲ荷物云々ノ事宮様より本郡) 關田口守備の用 方ハ風呂敷包ノ愫ナル 行せられ沿道の人民には唯 にばく府重職のご嗣子、或 聞かせたるに止まりたれ 謹記

一、長鯨丸へお乘込負大凡 之候條い何ノはんしナル|の字) に駕籠を駐め給はり 從五名(前出)ノ外一切無|字鷺内(今の錦村大字中田 者ト稱スルハ御上始メ主|知り奉るべき途中中田村大 得共定メテ奥州諸はんし 四五百名ノ由而シ上野ノ 者被存候平潟ニテ上陸者| 和泉守へ依賴致シ乘込有 必要無之二付不申存候 ・田村庄屋鷲叉市宅(今の 玉葉のお身なりしとは誰か ば後ちに至り此の君が金枝 は再建)に約四十分をご少 憇遊ばされて同八ツ半過 每日曜手術 B 外科部長 B N 科 内 臟科、 B 產婦人科女子泌尿科。 產婦人科部長 内科小兒科 光顧線 內科部長

醫學博士 桂氏 科 .

家

電平

ントゲン科

ントゲン科

醫學

嵐波

醫學博士

(院長毎日診療)

醫學士

一、救 療 所一、病 氣 相 談 所一、病 氣 相 談 脈 脈 脈 脈 脈 脈 脈 脈

電話六四一 リ看護婦見習募集 (共濟病院內) (共濟病院內) (共濟病院)

右ご旅館世話係申付候事

學 電話工二番

小凤科 樂劑 新潟醫學士

磐城共濟病院組織 外科花柳病科

服生學

色

話二〇五番 學校制定本タンは十五錢高た 九号 五年生位 八号 四年生位 あのや洋服店 三圓三十錢 二圓五十錢

仕へ奉つた其の際に與へた慈服院にご宿泊の砌ご診い外敷十名を(し族に限らず) 奉 行 所村志賀源吾、泉村吉田順助 辰五月二十八日 申渡の書の一葉を擧げれ 次の如きものである。 ばを更に増したること左い日 記にて知らる 秦 辰五月二十八日

別府温泉

ょ

生れた

温泉エデス

壹

账·噌 醬

池

屋

電話呼六六二音

取

Ħ.

拾 鏠

定

御酒は

越後名產

飲むなら銘酒

平町土橋二

八

料西 理洋 异事

電話四三九番

眼院ご駐輩相成申候に付 **今般輪王寺宮樣甘露寺慈**

吉田順介

過凍腰肩り神 響ののマン 筋のマン があるマンチ 痛傷ミリス痛 (一名あんまいらず)

も副作用がありませんのと効力が確實な事とは他一下人的の妙葉であります連續使用しまして此外用温泉エキスは今迄且つて世の中に無かつた ●皆樣是非お試し下さいませ

樂品の比ではありません 萬病に靈効ある別府鑛水 定價 平町五丁川 圓

單衣

は

質者の老い

電話二八番

七五一請

特約店

●養蠶用寒暖計 農藝消毒藥各種 藥劑師 小學生用 山野邊東次郎 圓圓圓圓九 卅廿十○十 錢錢錢錢錢

和洋銅鐵金が問屋とか問屋に 民師廉雪に勝る路でなし

電話指插入太哥

能复飲捷は一の生命なり

の肉質のロシピアレコード新荷着

大 塚 支 店 製 靴 部

話

t O

香香

振替貯金口座の九五六番